

平成26年5月29日

「この人に聞く」成熟社会と建築

東京大学工学部建築学科教授

隈 研吾（くま・けんご）氏

プロフィール 1954年横浜市出身、建築家。東京大学工学部建築学科卒業。東京大学大学院建築意匠専攻修士課程修了。コロンビア大学建築・都市計画学科客員研究員を経て、1990年限研吾建築都市設計事務所を設立。2009年4月より東京大学工学部建築学科教授。

日本建築学会賞作品賞（登米町伝統芸能館、1997）、村野藤吾賞（那珂川町馬頭広重美術館、2001）など多数受賞のほか、『小さな建築』（岩波新書）、『僕の場所』（大和書房）等著作も多数。



（前文）

世界を舞台に活躍される建築家、隈研吾氏に、現在のご活動、作品への取り組み、今後の展望について伺った。

■最近のプロジェクトについて

東京大学大学院ダイワユビキタス学術研究館には、実は東大に旧くからある安田講堂などへのオマージュ要素を含んでいます。これらの外壁にはスクラッチタイルが使われていて、様々な色のばらつきがあるのに、スクラッチの影ですごく自然な感じで、僕は実に生き物的だと思うんです。

タイルはすごく硬い素材だけれども、それをあんなに生き物的な素材に変えた内田祥三先生の設計は現代に通じる知恵があると思っています、それを木でやってみたいと考えたわけです。外壁に使用した木材は縦縞があり、寸法も、色も、節も多様で、そこに生物的な優しさがつくれなかなと思いました。

コンピュータの研究室というと、冷たくなってしまうことが多いけれども、コンピュータはそもそも人間社会をもっとやわらかく、優しくするものだろうと思っているので、そういう感じをあの外壁で出せたらなと思ったんです。

4月に公表された京王線高尾山口駅改築プロジェクトのきっかけは、駅周辺の壊される古い民家の廃材を活かしたまちづくりをしたいというアイデアがあったんです。ただ駅はやっぱり機能性が大事だから全部廃材とはいかないので、一部に廃材も使うことにしましたが、その他の部分にも木を使って、高尾山にある薬王院などすばらしい木造建物の予告編みたいな駅ができたらいいなと思ったわけです。完成は来年の春ですね。

海外事務所はパリと北京にあって、日本以外では15カ国でプロジェクトに携わっています。イタリアでは現在、北の方の町のレッジョ・エミリアとロベレートでプロジェクトがあり、またフランスとの国境の山の中の町スーザでは、高速鉄道の新しい路線の駅をデザインしています。

■ 建築における日本らしさ

実は日本の建物もその場所に合ったものをつくろうと考えています。だから、高尾山では高尾山の風景に、東大では後ろにある「懐徳館」という総長公邸の前田家の庭に合ったものをとの思いでつくっているのです。そういうものを超越した日本性みたいなものがあるとすれば、その場所にじっくりくるもの、材料、ディテールを選んでつくっていますから、ヨーロッパの人たちは、そこに何とか日本を読み込みたいと思うのでしょうか。

フランスのエクス・アン・プロヴァンスにつくったコンセルバトワール（音楽院）では、アルミの板を細かく折って外壁にしています。現地のフランス人からは「折り紙」と言われますが、僕は折り紙と最初から考えていたわけではなくて、エクス・アン・プロヴァンスの光がすごく強くてきれいだから、アルミの面にきれいに影が落ちるようにして、それが日よけのひさしの役割も果たしたらいいなと考えて、折れたファサードにしたのです。でも、そういうふうには日本を読み込んでくれるのも、建物の名前を覚えてくれるのもいいかなと思っています。

壁は僕にとっては生物の皮膚に近いもので、確かに中と外を仕切っているけれど、実はそこでいろんな調整が行われているので、つなげているという感じが強いなと思っています。水分も蒸発するし、外の水分も中に入り込んでくる。そういうものが理想の建築の壁だと思っています。それがいろんな表現となり、外国人から見ると日本的だと言われるということかもしれません。

■ 木造の復権「木の町東京」

今後のテーマの一つとして、木造の復権というのがあって、コンクリートや鉄に木を張るだけでも町ってすごくやわらかくなるし、一方この10年くらいで、木の不燃化技術や耐久性向上技術はすごく進歩してきているので、もう一

度、「木の町東京」を取り戻すことができればいいなと思っています。

現在、日本の行政が木造にかなり追い風で、実際に公共建築において木造化が進んでいる。だから町全体が、木でできていて木の香りのするものを復活できたらというのが夢ですね。

やはり人間関係がギクシャクしているのも、木の町なら随分解消されるように思えるし、昔、日本人は木を選ぶときに、その表面的な美しさより、まず香りを基準に木を選んだということもあるので、それほど人間と木とは長きにわたる深い友人関係だったわけです。